連載

観光まちづくり最前線 No.33 地域を歩くレポート

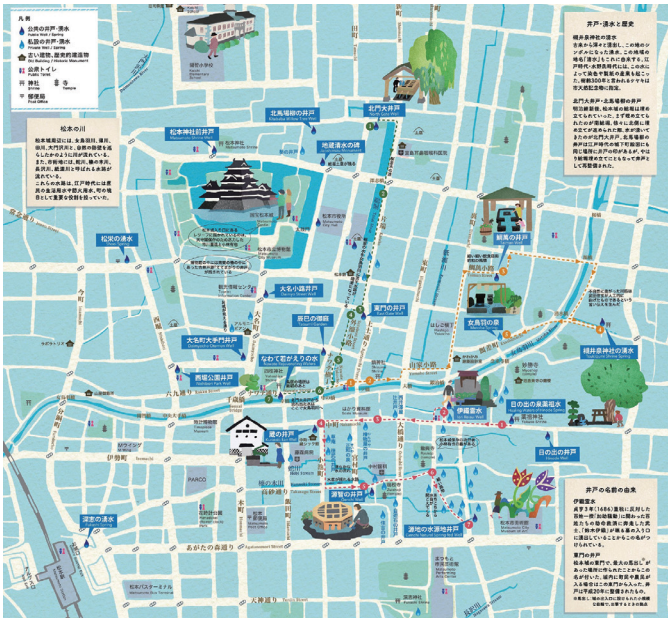
松本の湧水は地域に脈々と流れる歴史と文化の象徴
―松本に学ぶ“観光まちづくりの形態は水の如し”―

帝京大学　経済学部　観光経営学科　大下ゼミ

謹賀新年。先輩方から受け継いできた寄稿も今回が最終回となりました。これまでにも紹介したバスタプロジェクト展開の目的地の松本市に、観光まちづくりのススメ方の極意を感じました。

■ 松本に湧水が多い理由

松本市街地中心部に、場所によっては都心のコンビニよりも高い密度で存在する湧水。なぜ松本には湧水がこんなにも多いのか。それは松本市街を囲む様に存在する山々と、そこから流れ込んでくる複数の川からもたらされる豊富な水量が源となっています。その水質は「平成の名水百選」に登録されており、松本市は“水の街”といえます。松本市では、水をテーマに歴史や町並みを歩いて楽しめる３つのコースを記載した、「まつもと水巡り」マップを作成・配布し、まち歩きを推奨しています。



松本市では、湧水マップを作成。まちなかに多くの湧水があり、身近な存在となっています。

■ 松本の水を巡る旅

今回は、「時代とともに守られた水」というコースを散策してきました。実際に巡ると、昭和の風情がある路地も通るが、旅情と共に本当に順路なのかと少し不安にもなる。鯛萬の井戸は市内の井戸で最も水温が低い井戸であり、雑味がなく美味しいと遠方から訪れる方もいるといわれています。住宅街を進んで行くと槻井泉神社の湧水に辿りつきます。この湧水は近辺の町名の由来となっています。このコースの終点は女鳥羽の泉です。この泉は「善哉酒造」の前にあり、湧水で作られた酒は絶品です。市内のどの湧水でも地元の方が時折世間話をしながら水を汲んでおり、湧水が地域コミュニティの交流の場となっているのです。地域の生活インフラであり交流の場である湧水を巡る旅、皆さんもいかがでしょうか。

古来より和歌にも詠まれ都（みやこ）にも知られた槻井泉神社の湧水

■ 観光まちづくりの形態は水の如し

「持続可能な地域づくり」は、もはや定番の謳い文句になっています。水は器によって形を変えます。冷やせば堅い氷にもなり、熱すれば蒸気にもなります。

私たちの住む地域の足元には、観光まちづくりの源泉でもある地域が歩んできた履歴や地域の記憶とともに、脈々と水が流れています。その水の脈を受け止める器が、いま求められているのではないでしょうか。地域の器の形に応じて、観光まちづくりに取組む形態は様々であり、正解はないのかもしれません。地域の活力の源を受け入れる器づくりに、まさに地域の個性が映し出されるのです。これからも観光まちづくりの持続的な展開を見守っていきたいものです。

（最後の生き物係山下＆Dr.Shige）

松本市街地に残る最後の酒造所「善哉酒造」

参考：松本市公式観光情報「新まつもと物語」/ まつもと湧水巡り
https://visitmatsumoto.com/coverstory/yusuimeguri/

※３つのコースとは、①水の生まれる街、②時代とともに守られた水、③お堀の水をたどるです。